

平成二十三年度 武蔵野東中学校

入学試験問題

国語

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、チャオシーリンというところに、ひろい領土と、豊かな家畜をもつ王がいた。ことのほか妃を愛していたが、その分だけ、民衆にはむごかった。

その妃には、お気に入りのラマ（ラマ教Ⅱチベットを中心に発達した仏教の一派）僧がいた。そのラマ僧の教えを聞いて、王も妃も、読経に余念がなく、国のことも、民の暮らしも、かえりみようとはしない。

ある日、大臣のランチエが、

「王さま、毎日、読経ばかりして、何のお役に立ちましょう。民は、飢えに苦しみ、はやり病が後をたちませぬ。民を救うのが、王さまのお務めではございませんか」

というと、ラマ僧が、

「民が苦しむのは、前世からの因縁じや。いま読経を続けてこそ、極楽にいけるといふものじや」

冬のある日のこと、宮殿の外は、肌をさす北風、風にまう雪、水をまくとたちまち凍ってしまうほどだ。外にでた王と妃は、この寒さにたえられず、急いで宮殿に戻ると、暖炉にしがみついた。

王は大臣に聞いた。

「こんな日に、宮殿のうしろの湖で、夜を明かせる者がおるのかね」

「いささかなりとも、賞金をお出しになれば、おりましよう」

「できたなら、銀貨五百元（元Ⅱ中国で清朝以来の貨幣単位）をとらそう」

このうわさを聞いて、名のりでた貧乏人のうち、五〇人にやらせることになった。湖のまん中で、貧しい五〇人は、宮殿からもれるあかりの中で、燃えさかる炎の^{ほのお}ように、おどりくるい、だれもごごえ死に^{ほのお}しなかったのである。東の空がしらみはじめると、五〇人が宮殿に押しかけた。昨夜のようすを、興奮^{こうふん}ぎみにかたつた大臣ランチェは、賞金をはやくやってくれと、王にたのんだ。

「小羊の毛皮をきて、暖炉にしがみついても、寒くてたまらなかつたのに、氷の上において寒くなかつたとは、まったくおかしいことじゃ」

王がいうと、五〇人がこぞつてこたえた。

「^{あつ}湖の上では、王さまのあかりに照らされ、わしらは、^{あつ}熱い炎となつたのでごぞいます」
すると、ラマ僧が、横から口を出した。

「おまえたちは、王のあかりを盗んで、命拾いをしたのじゃ」

なるほどもっともだと、王は、一銭^{せん}も出そうとしないばかりか、どなりつけて、帰してしまつた。

大臣は、不満でならなかつた。家にもどつてからも、王に賞金を出させられないものかと思案のすえ、ついに^な名案を思いついた。

長い竹ざおを、三本いっしょに、細いひもでゆわえて、地面に立てかけた。さおの先に水を入れた銅の鍋^{なべ}をのせ、竹ざおの下方から、小さいランプでたきつけた。そうしておいて、大臣はねむりについた。

王は、相談すべきことがあつて、朝はやく、使いをよこした。

「ただいま、茶をわかつております。茶がわいたら、茶を飲んで、それから参上いたしましょう」

^{ねどこ}寝床から答えると、また寝入ってしまった。

昼近くになつても、大臣がこないの、王はまた使いをよこしたが、ランチェは、同じように答えて、使いを追い帰した。

日が西にかたむいた。それでも大臣は、ねむつたふりを続けている。王は、大声をはりあげた。

「起きろ、ランチェ」

ねぼけまなこのランチェは、^ななにくわぬ顔で、

「まだ湯がわきません。湯がわいたら、茶を飲んで、参上いたします」

怒り狂つた王は、

「まる一日かけても、まだわかないだと。そんなばかなことがあるものか。茶はどこだ」

「あそこです」

ランチェは、竹ざおを指さした。

「火は」

「そこです」

と竹ざおの下のランプを指さした。

王はプツとふきだした。

「なんてあほらしいことだ。こんなにはなれたところからじゃ、ぬくもりもしないぞ」

すると、ランチエは、しせい姿勢をただして、

「貧乏人たちが、氷の上で夜明かしたときには、王さまのあかりは、これ以上にはなれていたのですよ。どうして、あたたまることができましょう」

④これを聞いて、王は心から恥はじた。そして、賞金はぶじに支払しはらわれたのである。

この話をきいた妃とラマ僧は、大臣ランチエを亡きものにしようとたくらみ、王に進言した。

「過去にも、将来にもないことを、大臣にさせなさい。できなければ、罰ばつしてしましましょう」

大臣は、二か月ものあいだ、仮病けびょうをつかってやすみ、ひそかに自宅から墓地ぼちまでぬけ道を掘ほらせた。そして、妻つまに向って、

「おまえは、大げさに悲しんで、わたしが死んだと、王さまに申し上げておくれ」といった。

その夜、ランチエの妻は、髪かみをふり乱し、泣きさけび、さも⑤まことしやかに、

「大変でございます。主人が不幸にも、病やまいで亡くなりました」と告げた。

ざまあみろとばかり、妃とラマ僧はほくそえんだ。三日後、大臣の葬式そうしきが行われた。大臣はぬけ道を通って、なんなく家に帰りついた。

三か月がすぎたある晩、大臣は髪の毛も、うぶ毛もすっかりそり落として、王と妃の前に姿をあらわした。

「死んだはずじゃなかったのか」

と、王は、腰こしをぬかさんばかりに驚おどろいた。

「はい、あの世からまいりました」

大臣は、地獄じごくめぐりのようすを、⑤まことしやかに語かたってきかせた。これを聞くや、生き返ったと思ひこみ、王も妃もラマ僧も、ひざまずいて、三拝さんぱい九拝きゅうぱいした。

その日から、聖つひとなった大臣のもとに、だれもかれもが、おまいりにつめかけた。

ある晩のこと。大臣は、国王に告げた。

「えんま大王の若旦那が、極楽から嫁よめをとるといので、その祝いの席にまねかれました」

「ならば、わたしたちも、その地獄見物につれて行ってくれ」

「⑥地獄に行くには、一つは、髪の毛もうぶ毛も、すっかりそり落としてしまうこと。二つは、何も身につけないこと。三つは、道中、けっして目を開けないこと。四つは、笑われても、つばをはきかけられても、声も手も出さないこと。必ず守れるなら、えんま大王に馬を三頭よこしてもらいましょう」

王、妃、ラマ僧の三人は、すっかり用意を整えて、迎むかえのくるのを、いまかいまかと待っていた。大臣は、こっそり家に帰り、

「今晚、三頭のロバに、大きな鈴をつけて、宮殿へひいておいで」

と、妻に言いつけて、また、こっそり王のもとへもどった。

「今晚、えんま大王の大臣が、馬をつれてきますから、お三人のほかは、だれもよせつけないように」

夜ふけ、人が寝静まると、鈴の音が宮殿に近づいた。

「えんま大王の使いが到着しました。さあ、はやく」

三人は、一糸まとわぬ姿で、ロバにまたがり、目を閉じた。ロバは、宮殿のまわりを、一晚、ぐるぐるとまわった。

太陽がのぼると、大臣は、三頭のロバを、街にひき出させ、自分は、こっそり家に帰った。シャンシャンシャン、鈴をならして、ロバは街のなかを行進した。見物人がつめかけ、大笑いしたり、妖怪だとさげんだり、つばをはきかえてばかにしたりした。だが、三人にとっては、ああ、ここがえんま大王の都なんだなど、うれしくてたまらない。

すぐに、三人の兵士がかけつけ、ロバごと連行して、はじめて、王、妃、ラマ僧であることがわかった。

翌日、大臣のよそおいで、ランチェがあらわれた。

「王さまの仰せは、過去にも、将来にもないようなことをさせよとのこと。あなたがたのように、地獄に行かれたことは、過去にも将来にも二度とないことでしょう」

王には、一言もかえすことばがなかった。

〈『中国の民話』より 「地獄を見た王」(蔵族)〉

チベット

問一 ラマ僧と大臣ランチェの民に対する考え方の違いを、本文中の言葉を使って説明しなさい。

問二 ①「湖の上では、王さまのあかりに照らされ、わしらは、熱い炎となったのでございます」とありますが、貧乏人五〇人は王に対するどういう気持ちで言ったと考えられますか。次の文の() にあてはまる言葉をそれぞれ本文中から書きぬきなさい。

・王の(A) からまれる(B) にはげまされたおかげで、燃えさかる(C) のようにおどろく
るい、その結果、だれも(D) 死にしなかったことを感謝する気持ち。

問三 ②「名案」とありますが、これはランチェが王に何を気づかせようとしたものですか。その答えとなるランチェの言葉を本文中から一続きの二文で探し、その最初の五字を書きぬきなさい。

問四 ③「なにくわぬ顔」とありますが、この言葉を使って主語・述語をふくんだ短文を作りなさい。

問五 ④「これを聞いて、王は心から恥じた」とありますが、ここから王はどういう人物(性格)であると考え

えられますか。次からもっともあてはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他人の話を聞き入れずに、自分の信念を押しとおす人。

イ 他人の話を聞いても、なかなか物事を決められない人。

ウ 他人の話を裏を感じ取り、他人を絶対に信用しない人。

エ 他人の話をすぐに聞き入れ、他人に左右されやすい人。

問六 ―⑤「まことしやか」とありますが、その意味を表した次の文の（ ）にあてはまる言葉を平仮名四字で書きなさい。

・いかにも（ ）らしいさま。

問七 ―⑥「地獄に行くには、一つは、髪の毛もうぶ毛も、すっかりそり落としてしまうこと。二つは、何も身につけないこと。三つは、道中、けっして目を開けないこと。四つは、笑われても、つばをはきかけられても、声も手も出さないこと。必ず守れるなら、えんま大王に馬を三頭よこしてもらいましょう」とありますが、この言葉の真の目的をまとめた次の各文の（ ）にあてはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

A 王、妃、ラマ僧であることを（ ）に気づかせず、妖怪のように思わせるため。

B 三人にえんま大王の馬が実は（ ）であることを気づかせないため。

C 街のなかを行進しているのを、ここがえんま大王の（ ）だと思わせるため。

問八 この話のおもしろさはどこにあると思いますか。説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

他人の心を知るには、どうすればいいのでしょうか。ここでは、トマス・ネーゲルの『哲学ってどんなこと？』で使われた例を、利用させてもらいます。いま仮定として、あなたと友人が二人で、同じ種類のアイスクリームを食べているとします。あなたが甘くて美味しいと思ったので、友人にも同意を求め、「これ、甘くて、美味しいよね！」と言うとしましょう。それに対して、友人も「うん、甘くて、美味しいよ！」といえば、この会話はそれで終わりになります。しかし、問題なのは、友人が相づちを打ってくれたとき、はたして二人が同じような経験をしているかどうかです。

日常生活では、こうした場合、あらためて問題にすることはありません。とくに疑うことなく、別の会話に移っていくでしょう。しかし、ちょっと立ち止まって考え直してみると、①不思議なことが分かります。あなたがあなたのアイスクリームを食べて感じている「甘さ」や「美味しさ」は、友人が友人のアイスクリームを食べて感じて

いる「甘さ」や「美味しさ」と同じなのでしょう。どうも気になったので、二人のアイスクリームを交換してみます。②そのとき、同じ味がしたので、「二人は同じ感じ方をしていると考えるのでしょうか。」

多分そうかもしれない、と普通は考えます。しかし、二人が同じアイスクリームを食べて、ともに「甘くて美味しい」と表現しても、二人が感じている経験が同じだとは言えません。たしかに、自分の感じ方であれば、まさに自分が経験しているのですから、分かります。ところが、友人が感じている経験については、友人のふるまいや言葉からしか分かりません。しかし、同じふるまいや言葉で表現しているからといって、二人が同じ経験をしているとは結論できません。

あなたは、友人のふるまいや言葉を観察して、あなたの感じる経験と対応させるでしょう。しかし、それは言うまでもなく、友人の感じる経験ではありません。これはいつぱんに、「③類推説」と呼ばれています。他人の心はあくまでも推測の域を出ないのです。たとえば、友人が前を通りすぎる車を見て、「あざやかな赤だ！」と言ったとき、あなたも同意するかもしれません。しかし、「あざやかな赤」という言葉で、あなたが思い描いているのと、友人が思い描いているのが同じかどうかは分かりません。きよくたんな話、二人がまったく違ったイメージをもっていても、構わないのです。言葉を使うとき、二人が共通した使い方をしているならばいいのです。

④じっさい、私たちには、それ以外の方法はなさそうです。他人については、身体ふるまいや言葉などを通して、その「心」を理解しています。しかしながら、他人の心を直接観察することはできません。だからこそ、ウソをつくこともできれば、他人からあざむかれることもあるのです。

(岡本裕一郎「十二歳からの現代思想」より)

問一 — ①「不思議なこと」とありますが、何が不思議なのか説明している一文を探し、その最初の五字を書きなさい。(句読点を含む)

問二 — ②「そのとき、同じ味がしたので、二人は同じ感じ方をしていると言えるのでしょうか」とありますが、この質問に対する筆者の考えをまとめた次の文の()にあてはまる言葉を文中から十字で書きぬきなさい。

・ () が同じだとは言えないため、同じ感じ方をしているとは言えない。

問三 — ③「類推説」とありますが、どのような考えか本文中の言葉を使って説明しなさい。

問四 — ④「じっさい、私たちには、それ以外の方法はなさそうです」とありますが、なぜですか。本文中の言葉

を使って説明しなさい。

問五 「心」について、この文章を読んであなたが感じた意見や感想を、次の指示にしたがって書きなさい。

- ・ 字数は百二十字以上、百六十字以内とします。
- ・ 原稿用紙の正しい使い方にのっとり、丁寧な字で記入してください。

三 次の各問題に答えなさい。

問一 次の①～⑤の―線部の漢字には読み仮名をつけ、⑥～⑩の―線部の仮名は漢字に直して書きなさい。必要に応じて送り仮名もつけなさい。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 食料の供給量が減少している。 | ② 冬至の日はゆず湯に入る。 |
| ③ 車窓の景色を楽しむ。 | ④ 号令で奮い立たせる。 |
| ⑤ 古典の文章を口語訳する。 | ⑥ インガ関係を調べる。 |
| ⑦ 江戸時代にさかえた町。 | ⑧ 本人のテキセイに合わせる。 |
| ⑨ 二、三歩しりぞいて見る。 | ⑩ ホシヨウ人になってもらう。 |

問二 次の①～⑤の俳句の（ ）にあてはまる言葉を、あとのア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---------------------|--------------|
| ① いくたびも（ ）の深さをたづねけり | まさおかしき 正岡子規 |
| ② （ ）や闘志いだきて丘に立つ | たかはまきよし 高浜虚子 |
| ③ くるがねの秋の（ ）鳴りにけり | いいただこつ 飯田蛇笏 |

- ④ () のしぶけり四方よもに風の街
石田波郷いしだはきょう
- ⑤ とどまればあたりにふゆる () かな
中村汀女なかむらていじよ

- ア 春風 イ 噴水ふんすい ウ 風鈴 エ 蜻蛉とんぼ オ 雪

問三 次の①～⑤のことわざの () にあてはまる言葉を、あとのア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 仏の顔も () () ② 早起きは () () の徳
- ③ 石の上にも () () ④ () () の魂たましい百まで
- ⑤ () () 寄れば文殊もんじゆの知恵

- ア 三人 イ 三文さんもん ウ 三年 エ 三度 オ 三つ子

入学試験問題 国語 【模範解答】

問一	(例) ラマ僧は民の暮らしはかえりみようとほしくないが、ランチエは民を救うことを考えている。
----	--

問二	A 宮殿
問三	貧乏人たち
問四	(例) 彼は昨日約束をやぶっておきながら、今日はなにくわぬ顔で私に声をかけてきた。

問五	エ
問六	ほんとう
問七	A 見物人 B ロバ C 都
問八	(例) ラマ僧らの悪だくみをランチエが知恵と機転で切りぬけ、逆にやりこめてしまったところ。

問一	し
問二	二
問三	(例) 他人のふるまいや言葉を観察して、自分の感じる経験と対応させる考え方。
問四	(例) ふるまいや言葉などを通して理解しようとしても、他人の心を直接観察することはできないから。
問五	略

問一	① きょうきゅう
問二	② とうじ
問三	③ しゃそう
問四	④ ふる
問五	⑤ こうごやく
問六	⑥ 因果
問七	⑦ 栄え
問八	⑧ 適性
問九	⑨ 退い
問十	⑩ 保証

問一	① エ
問二	② オ
問三	③ ウ
問四	④ オ
問五	⑤ ア

問一	各 5 点 × 2 = 10 点
問二	各 2 点 × 7 = 14 点
問三	各 4 点 × 4 = 16 点
問四	各 5 点 × 4 = 20 点
問五	10 点
問六	各 2 点 × 10 = 20 点
問七	各 1 点 × 10 = 10 点
問八	各 1 点 × 10 = 10 点
問九	各 1 点 × 10 = 10 点
問十	各 1 点 × 10 = 10 点
計	100 点